

企業ニュース AGC

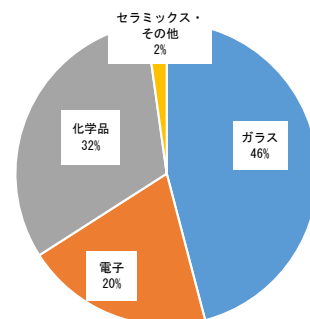
(東証1部：5201) <https://www.agc.com>

作成者：兵藤三郎

ガラス、電子、化学品分野に事業展開する素材メーカー

◇20. 12期売上高構成比

1907年に三菱系のガラスメーカー旭硝子として創立。1944年、日本化成工業と合併し、三菱系の化学メーカー三菱化成工業に集約。1950年、同社が企業再建整備法により3分割され、旧社名に復し再発足し、2018年、現社名に改称した。祖業のガラスは建築用や自動車用向けに展開。電子は、液晶・有機EL用ガラス基板、半導体プロセス材料などを製造する。EUV（極端紫外線）露光用フォトマスクブランクスも手掛ける。化学品は、塩化ビニル（以下塩ビ）やウレタン原料、フッ素樹脂などの化成品原材料、医薬品中間体・原材料などを手掛ける。同セグメントでは、M&Aを含めた生産能力増強によりライフサイエンス事業が拡大している。ファイザー・ビオンテック製の原材料（プラスミドDNA）の製造を受託しているほか、幾つかの新型コロナワクチンに関与している。



(出所) AGC資料よりCAM作成

戦略事業が業績をけん引

21. 12期の連結業績の会社計画は、売上高が1兆6,900億円、前期比20%増、営業利益が2,000億円、同164%増。第3四半期時点での進捗状況などを勘案し、従来計画を売上高、営業利益ともに200億円上方修正した。決算説明会でのコメントでも言及された通り、10-12月期の不透明要因を考慮し保守的に計画したこともあり、実績値は上振れたと推定する。自動車用ガラスは半導体不足の影響を受けたが、建築用ガラスの回復、ライフサイエンス関連製品や半導体関連製品の出荷増で大きく増収増益した。化学品ではクロールアルカリのスプレッド悪化を見ていたが想定ほど悪化していない模様。電子材料も最需要期の第4四半期は順調に業績が伸長した模様。

22. 12期決算連結業績の会社予想は、決算発表時に示されようが、EUV用マスクブランクス伸長や、新型コロナワクチン原材料製造の受託などの寄与が見込め、戦略事業領域であるエレクトロニクス、ライフサイエンスが業績をけん引しよう。21. 12期は非常に好調に推移したクロールアルカリも大きなスプレッド縮小には至らない模様。

[株価動向・投資判断]

事業の構造改革進展、コロナ禍からの需要回復も素材メーカーである当社業績に寄与。加えて、戦略事業が順調に利益貢献していることも評価したい。

<5201 AGC 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19. 12	1,518,039 (▲0)	101,624 (▲16)	76,213 (▲41)	44,434 (▲50)	200.9	120.00
20. 12	1,412,306 (▲7)	75,780 (▲25)	57,121 (▲25)	32,715 (▲26)	147.8	120.00
21. 12 予	1,690,000 (20)	200,000 (164)	207,000 (262)	129,000 (294)	582.5	210.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2022/1/7)	5,360 円
昨年来高値(高値日)	6,040 円(21/11/4)
同 安値(安値日)	3,530 円(21/1/6)
予想P E R(21. 12予)	9. 2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	5,799. 0 円
P B R	0. 92 倍
予想配当利回り	3. 92 %
(1株当たり配当金年210. 00円)	
R O E(20. 12)	2. 9 %
発行済み株式数	22,744 万株